

照屋清之介¹：沖縄県渡嘉敷島におけるムラサキイガイの漂着記録

Shinnosuke TERUYA¹ : *Mytilus galloprovincialis* washed ashore at Tokashiki Island, Okinawa Prefecture, Japan

ムラサキイガイ *Mytilus galloprovincialis* Lamarck, 1819は、1920年以降に日本の北海道から九州にかけて定着した地中海原産のイガイ科の貝類であり、チレニアガイとも呼ばれる（黒住 2000）。日本本土の漁港や岩礁地では普通に生息しているが、琉球列島では度々漂着が報告されているものの、定着は殆ど確認されていない。西表島白浜では1994年以前に定着した可能性が報告されているが（久保田・島袋 1996）、現状は不明である。

琉球列島におけるムラサキイガイの記録は、1978年に波照間島（黒住 1995）、1994年に阿嘉島（久保田・林原 1995）、1995年に西表島宇奈利崎（久保田・島袋 1996）、1996年に西表島中野の浜（久保田・島袋 1997）、1995年に石垣島川平石崎、2003年に屋我地島済井出（名和 2010）で確認されている。

著者は、2009年2月23日から3月16日、2010年2月27日から3月18日にかけて沖縄県渡嘉敷島の渡嘉志久ビーチで、殆ど毎日、貝類の打ち上げ採集、観察を行った。2009年3月14日に、漂着ブイの付近に散らばるムラサキイガイの漂着を確認した（図1, 2）。7個体が確認されたが、全て合弁の死殻であった。また、アサガオガイ類や台湾および韓国由来と思われるペットボトル類などのゴミも大量に確認された。2009年3月14日以外の上記の期間中は、ムラサキイガイは確認されなかった。平均風速は3月12日は8.6 m/s、13日は7.2 m/s、14日は9.2 m/sであった（気象庁ホームページ）。14日は、3月中では最も平均風速が高い日であった。このことから、付近の海域の沖合を漂っていた漂着ブイが風により漂着したと考えられる。

また、著者は2009年と2010年の上述の期間中に、渡嘉志久湾内の貝類を出来る限り観察したが、ムラサキイガイが定着していることは確認されなかった。琉球列島には約40年前から度々漂着しているようであるが、本格的な定着には至っていないのかもしれない。

謝辞：渡嘉志久湾において調査を行うにあたって、国立沖縄青少年交流の家の職員の皆様にはご理解、ご協力を頂きました。また、東京海洋大学水産生物研究会の部員の皆様には調査期間中に渡嘉志久湾における貝類の情報を頂きました。心より御礼申し上げます。

引用文献

- 気象庁ホームページ。 (<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>) (2016年3月2日閲覧)
久保田信・林原 毅. 1995. 慶良間列島, 阿嘉島へ漂着した多数のチレニアガイ. みどりいし, 6 : 17-19.
久保田信・島袋ときわ. 1996. 八重山列島, 西表島で初めて採集されたイガイ属2種 (軟体動物門, 二枚貝綱, イガイ目). 南紀生物, 38 (1) : 27-28.
久保田信・島袋ときわ. 1997. 八重山列島, 西表島へ再び漂着したチレニアガイ. 南紀生物, 39 (1) : 77-78.
黒住耐二. 1995. 八重山列島へのムラサキイガイの漂着?例. ちりばたん, 26 (2) : 62.
黒住耐二. 2000. イガイ科. In 奥谷喬司 (編著) 日本近海産貝類図鑑. pp.862-877. 東海大学出版会, 東京.
名和 純. 2010. 琉球大学資料館 (風樹館) 二枚貝類標本目録. 145pp.琉球大学資料館 (風樹館), 西原.

(Received Apr. 12, 2016; accepted May 20, 2016)

¹ 東京大学大学院理学系研究科 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

¹ Graduate School of Science, The University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan

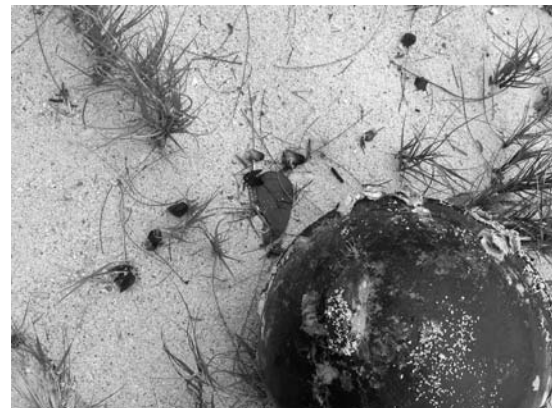


図1 漂着ブイの付近に散らばるムラサキイガイ *Mytilus galloprovincialis* Lamarck, 1819



図2 打ち上げられていたムラサキイガイ *M. galloprovincialis*